

社会政策学会 *Newsletter*

学会本部 大分大学経済学部 URL <http://www.soc.nii.ac.jp/sssp/>
 Tel & Fax 097-554-7682 E-mail: ssspoita@cc.oita-u.ac.jp
 編集・発行 阿部 誠(代表幹事) 菅沼 隆(広報委員長)
 事務センター 〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-7-2 大橋ビル (株)ワールドプランニング
 Tel: 03-3431-3715 Fax: 03-3431-3325 E-mail: world@med.email.ne.jp

目次

1. 第 117 回大会参加の要請
2. 会員登録内容確認票の返送
3. 第 117 回大会プログラム
4. 第 116 回大会開催校報告
5. 第 116 回大会会計報告
6. 学会賞表彰規定改正
7. 幹事会報告
8. 承認された新入会員

1. 第 117 回大会参加の要請

第 117 回大会を 2008 年 10 月 11・12 日に岩手大学にて開催いたします。今回は共通論題としてホット 이슈の「ワーキングプア」を取り上げている他、書評分科会・テーマ別分科会・自由論題など 48 本の報告が行われます。多数の皆様のご参加をお願いいたします。

2. 会員登録内容確認票の返送のお願い

社会政策学会の会員名簿を本年 12 月末に発行できるよう準備を進めております。現在、会員の皆様に【会員登録内容確認票】をお送りしておりますが、現在の登録内容をご確認のうえ、下記返送締切日までに「学会事務センター」までご返送くださいますようお願い申し上げます。

返送締切日 2008 年 10 月 15 日(水)

返送方法は郵送・FAX・E-mail のいずれでも可です。上記期日までに返送のない場合には、修正事項がないものとして取り扱うことになります。

なお、名簿について、ご不明な点は(株)ワールドプランニング内社会政策学会事務センターまでお問い合わせください。また、本確認票が届いていない場合も、お手数ですが、下記「学会事務センター」へご連絡ください。みなさまのご協力をよろしくお願いいたします。

社会政策学会事務センター
 〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-7-2 大橋ビル
 (株)ワールドプランニング内
 TEL : 03-3431-3715 FAX : 03-3431-3325
 E-mail : world@med.email.ne.jp

3. 第 117 回大会プログラム

第 1 日 10 月 11 日(土)

9:30~11:30 書評分科会、テーマ別分科会、自由論題

<書評分科会・第1> [1階G1大教室]
 社会保障分野
 座長:平岡 公一(お茶の水女子大学)

1. 埋橋孝文編著『ワークフェア — 排除から包摂へ?』
 法律文化社、2007年3月
 評者:小野塚 知二(東京大学)
2. 岡本英男『福祉国家の可能性』
 東京大学出版会、2007年3月
 評者:鈴木 和雄(弘前大学)
3. 武川正吾『連帯と承認 — グローバル化と個人化のなかの福祉国家』
 東京大学出版会、2007年11月
 評者:鍾 家新(明治大学)

<テーマ別分科会・第1> [2階G2大教室]
 介護者の確保育成策 — 国際比較の視点から
 座長:三富 紀敬(静岡大学)
 コーディネーター:松本 勝明(一橋大学)

1. ドイツにおける介護者の確保育成策
 松本 勝明(一橋大学)
2. フィンランドにおける介護者の確保育成策
 笹谷 春美(北海道教育大学札幌校)
3. イタリアにおける介護者の確保育成策
 宮崎 理枝(大月短期大学)
4. アメリカにおける介護者の確保育成策
 森川 美絵(国立保健医療科学院)

<テーマ別分科会・第2> [2階G29教室]
 多様な貧困と所得保障
 座長・コーディネーター:山田 篤裕(慶應義塾大学)

1. OECD相対的貧困基準と生活保護基準の重なり
 山田 篤裕(慶應義塾大学) 四方 理人(慶應義塾大学)
 田中 聡一郎(立教大学) 駒村 康平(慶應義塾大学)
2. 貧困率の地域差と生活保護基準の考察
 駒村 康平、山田 篤裕、四方 理人、田中 聡一郎

3. 課税最低限未満世帯の増加と社会保障
田中 聡一郎、駒村 康平、四方 理人、山田 篤裕
4. 若年層の貧困下と家族の変化
四方 理人、山田 篤裕、田中 聡一郎、駒村 康平

<書評分科会・第2> [3階G32教室]
労働分野
座長:吉村 臨兵(福井県立大学)

1. 鈴木 玲・早川 征一郎編著『労働組合の組織拡大戦略』
御茶の水書房、2006年3月
評者:福井 祐介(西日本短期大学)
2. 木村 保茂・藤澤 建二・長田 萬亨・上原 慎一『鉄鋼業の労働編成と能力開発』
御茶の水書房、2008年3月
評者:平地 一郎(佐賀大学)
3. 野村正實『日本の雇用慣行』
ミネルヴァ書房、2007年8月
評者:小越 洋之助(國學院大學)

<自由論題・第1> [1階G18教室]
海外の労使関係と労働政策
座長:上田 眞士(久留米大学)

1. フランス非市場領域における就労支援事業とその変化
— 2002年の就労支援改革と関連づけて
松原 仁美(大阪市立大学院)
2. 中央協約から見るスウェーデンの集権的労使関係
西村 純(同志社大学院)
3. アメリカのワーク・ライフ・バランス政策 — 育児支援面から
中村 艶子(同志社大学)

<自由論題・第2> [1階G19教室]
社会政策
座長:室住 眞麻子(帝塚山学院大学)

1. 戦前日本における感化事業の到達点 — 少年教護法をめぐって
杉田 菜穂(大阪市立大学院)
2. 労働・社会保障に対する総合政策の樹立を目指して
岩田 克彦(職業能力開発総合大学校)
3. 社会政策の制御可能性と組織特性に関する領域間比較
高橋 聡(岩手県立大学)

11:30~12:50 昼休み(幹事会、各種委員会、専門部会)

12:50~14:50 テーマ別分科会、自由論題

- <テーマ別分科会・第3 労働組合部会> [1階G1大教室]
労働組合運動の再活性化戦略とその展望 — 韓国とオーストラリア
座長:鈴木 玲(法政大学)
コーディネーター:浅見 和彦(専修大学)
1. 韓国における産業別労働組合建設運動 — 金属労組と保険医療労組を中心に
金 元重(千葉商科大学)

2. オーストラリア組合運動の復活への道 — “Organizing Model”と2007年総選挙
チャールズ・ウェザーズ(大阪市立大学)

<テーマ別分科会・第4 社会保障部会> [2階G2大教室]
高齢期における生活保障制度再構築の課題
座長・コーディネーター:河合 克義(明治学院大学)

1. 戦後日本社会保障史における「後期高齢者医療制度」
相澤 與一(高崎健康福祉大学)
2. 農村における高齢者の労働と生活保障の課題 — 伊那地域における退職農業者調査を中心に
小澤 薫(県立新潟女子短期大学)
3. 都市部の高齢自営業者の生活における社会保障の位置づけ — 東京の城東地域における実態調査から
宮寺 良光(中央大学院)

<自由論題・第3> [1階G18教室]
母子世帯
座長:禿 あや美(跡見学園女子大学)

1. 被保護母子世帯の貧困ダイナミクス — 保護受給層の母子世帯をめぐる貧困誘因について
道中 隆(大阪府立大学)
2. ひとり親世帯の母親の職業能力開発
大矢 奈美(青森公立大学)
3. 児童扶養手当の制度変遷・給付水準・給付実績に関する分析
田宮 遊子(神戸学院大学)

<自由論題・第4> [1階G19教室]
非正規・パート労働
座長:三山 雅子(同志社大学)

1. 相対的過剰人口の「現代的形態」に関する考察
川崎 志帆(立教大学院)
2. 地方自治体の行政サービスの外部化と非正規労働者の雇用問題 — 東京都A区の事例を中心に
小尾 晴美(中央大学院)
3. 正社員転換・登用から観るパートの均衡・均等待遇の実態と課題
金井 郁(東京大学)

<自由論題・第5> [2階G29教室]
英米における医療問題
座長:長澤 紀美子(高知女子大学)

1. イギリスにおける地域医療改革 — ポリクリニック構想の特徴と課題
白瀬 由美香(同志社大学)
2. 社会政策における専門家と非専門家 — 英国における医療専門職への規制の「近代化」を例に
石垣 千秋(東京大学院)
3. アメリカにおける病院経営の「合理化」と派遣看護師の労働問題
早川 佐和子(明治大学院)

15:00～17:00 自由論題

<自由論題・第6> [1階G1大教室]
労働・社会問題
座長:水野谷 武志(北海学園大学)

1. 長時間労働と労働時間管理
渡部 あさみ(明治大学院)
2. 企業組織再編と企業別労働組合(2)
坂 幸夫(富山大学)
3. 集団殺人と支配の論理
張能 美希子(千葉商科大学院)

<自由論題・第7> [2階G2大教室]
雇用構成と雇用政策
座長:山本 郁郎(金城学院大学)

1. 「鎖国」から「開国」へ — 韓国の「雇用許可制」の構造と
外国人労働者雇用実態
宣 元錫(中央大学)
2. 鉄鋼業における雇用構成の実態と規定要因
藤井 浩明(名古屋市立大学院)
3. ワークフェアの概念規定の困難性
櫻原 朗(山口県立大学)

<自由論題・第8> [1階G18教室]
貧困と所得保障
座長:久本 貴志(福岡教育大学)

1. 岩手県町における貧困の特徴
佐藤 嘉夫・小池 隆生(岩手県立大学)
2. 障害のある人に対する公的な所得保障 — アメリカの年
金、公的扶助、就労支援を参考に
百瀬 優(立教大学)
3. 中国農村地域における最低生活保障制度の全面展開に
ついて
王 文亮(金城学院大学)

<自由論題・第9> [1階G19教室]
介護・福祉労働の人材育成
座長:小笠原 浩一(東北福祉大学)

1. 介護労働のキャリア形成に関する一考察
高橋 幸裕(一橋大学院)

2. 高齢者福祉民営化と人材育成 — 地域包括支援セン
ター設立を題材にして
三宅 正伸(大阪商業大学院)

<自由論題・第10> [2階G29教室]
医療
座長:長井 偉訓(愛媛大学)

1. 医療生協における利用者と専門職の関係性
山下 智佳(明治大学院)
2. 医療福祉公共支出と非公式部門の可能性
黒沼 精一(仏教大学修士課程修了)
3. 病院における能力主義管理と看護職従事者の能力開発
久住 千佳子(北海道大学院)

18:30～20:30 懇親会【ホテル東日本】

第2日 10月12日(日)

共通論題 【人文社会科学部5号館 51大教室】
ワーキングプア — 労働・生活・運動
座長:伊部 正之(福島大学)、清山 玲(茨城大学)

9:30～12:00

- 報告1: ワーキングプア急増の背景と日本社会の課題
後藤 道夫(都留文科大学)
- 報告2: 雇用と働き方・働きかたから見たワーキングプア
伍賀 一道(金沢大学)
- 報告3: 居住貧困と居住福祉政策
岡本 祥浩(中京大学)

12:00～13:20 昼休み(幹事会、各種委員会、専門部会)

13:20～14:30

- 報告4: ワーキングプアの増大と新しいユニオン運動
木下 武男(昭和女子大学)
- コメント 塚原 康博(明治大学)

14:45～16:15

総括討論

4. 第116回大会開催校報告

社会政策学会第116回大会は、2008年5月24日(土)・25日(日)の両日、國學院大學渋谷キャンパスで開催された。

参加者数は410人(会員313人うち院生会員39人、非会員97人うち院生非会員46人)であった。参加者数が過去最高水準であった前回春季(第114回)大会の427人(2007年東京大学、会員341名、非会員86名)より若干少なかったが、非会員の参加はこれまでも増して多く、過去最高となったものと思われる。

なお、事前振込者うち31人(会員29人うち院生会員5人、

非会員2人)が欠席であった。

1. 実行委員会

第116回大会実行委員会は、2007年5月16日に國學院大學の5人の会員によって組織され、実行委員長に小越洋之助、事務局長に橋元秀一を選出し、事務局を中心に準備作業を進めていくことを確認した。後述するように、最大の問題は会場確保であり、事務局は直ちにその手配に入った。

12月5日に第2回実行委員会を開催し、役割分担として、企画委員会との連絡・プログラム広告担当を木下順、会計担

当を根岸毅宏、大会プログラム冊子作成・会場設営担当を橋元、懇親会・弁当担当を小越とすることとし、それぞれの準備にあたることとなった。

事務局では、第114回大会実行委員会事務局長の小野塚知二氏(東京大学)と連絡を取り、同大会での経験等を最大限活用させていただくこととした。

とりわけ参考となったのは、大学生協への委託経験であり、第115回大会(龍谷大学)でも事務処理を委託したという実行委員長の大前眞氏にも助言をいただいた。

後述のように、大会プログラム印刷・発送、事前振込事務処理、名札作成を國學院大学生協に委託することになったが、十分な事務局体制がとれない中で、無事準備を進めることができた大きな要因であった。小野塚氏と大前氏には深く感謝申し上げたい。

第3回実行委員会は2008年1月23日に開催され、大会予算案を決定し、1月27日の幹事会にて承認された。その後の準備作業は、会議設定がきわめて困難な状況もあり、連絡調整をメールではかりながら、事務局および各担当を中心に進められていった。

第4回実行委員会は大会前日の5月23日に開催され、大会会場設営と運営についての打合せを行った。あわせて実行委員をつうじて募った大会要員に集まってもらい、大会要員業務の説明と確認を行った。

2. 会場の確保

会場確保の問題は、非常に困難な問題であった。國學院大學渋谷キャンパスでは、第二部・夜間主コースの授業が土曜日の21:05まであり、あいにく再開発工事中で教室が最も少なくなっている時期でもあったことによる。

コンパクトに50m圏内ですべての会場を準備できるというメリットはあるものの、土曜日に会場として必要な教室数を確保することは無理と判断せざるを得なかった。そこで、土曜日に共通論題、日曜日に分科会とすることを幹事会にご了解いただき、会場確保を図ることとした。

実行委員会を組織した直後、約1年前の2007年6月1日に、必要となるであろう会場数を想定し、直ちに仮押さえの教室借用申請を行った。しかし、これはあくまでも仮押さえにすぎず、大学担当課は協力を約束してくれたものの、2008年度の時間割も決定していない段階では、不確定要素が多かった。

具体的な会場借用の折衝・調整を行う事ができたのは、2008年3月であった。

共通論題および総会や分科会などの会場となる教室を具体的に決定しなければ、大会会場案内図を掲載する大会プログラムの印刷発注ができない。そのため、時間との勝負であった。

また、他の学会も同日開催が予定されたために、その調整も含めて難航した。土曜日の授業教室とのバッティングの場合、大会開催日には授業教室の変更をお願いすることを含めて決断せざるを得ず、24日の共通論題および総会会場、休息室、書籍展示・販売室、各種委員会会場11教室、懇親会会場、25日の分科会会場、休息室、書籍展示・販売室、各種委員会会場10教室を決定した。

幸いにも、5月24日は、たまプラーザキャンパスでの体育祭の開催に伴う休講措置がとられることとなり、授業とのバッティングは生ぜず、予定通りの会場を利用することができた。

こうして、コンパクトな会場利用という意味で、大会開催に

貢献できたのではないかと考えている。

ちなみに、國學院大學では教員が所属する学会の大会開催に対して、会場使用料は現在の所は徴収していない。なお、当日の冷房について、一部ご迷惑をおかけした点について、ご容赦とご理解を賜りたい。

3. 大会開催の予算と決算

社会政策学会幹事会が「大会会計指針」を決定し、第114回大会以来、大会開催の効率化や経費削減がはかられてきた。第116回大会では、これらの前例を参考にしながら取り組みを進めた。予算および決算は、別紙の通りである。

収入は、1,956,730円であった。予算よりも3万円余り多くなったのは、広告・展示販売が1社多く、懇親会参加者が多く、弁当申し込みは少なかったことによる。支出は、収入と同額に収まり、会計面でも無事に開催の責任を果たすことができた。

収支ゼロとすることができたのは、支出面での経費を抑えることができたからである。その主たる要因は、國學院大學生協の協力に依るところが大である。國大生協に委託した開催業務は、大会プログラム印刷・発送、事前振込事務処理、名札作成であり、原稿や書式等をすべてファイルで事務局が作成した上で委託したこともあって、これらを57万円余りの金額で請けてもらった。

この結果、予算より8万余円安くすることができた。加えて会場看板などについては無料で協力していただき、予算5万円を節約できた。國大生協には、さらに懇親会と弁当を発注したが、懇親会の料理等の質量を考えれば、格安で提供いただくことができ、経費を抑えられた。

他方、予算よりも経費がかさむことになったのは、大会準備と運営のための要員アルバイト謝金と要員の宿泊費のためである。これらは、二部授業終了後の21:05以降と早朝に会場設営をしなければならなかったことなどによる。これらの経費は当初予算を上回ったものの、赤字を発生させることなく、全体として効率的支出とすることができた。

4. 会場準備・運営等

(1) 広告および書籍展示販売の募集

出版社等10社に対して、広告掲載および大会会場での書籍展示販売について案内を送付した。

大会プログラム冊子への半頁広告掲載と書籍展示・販売を一括のものとして18,000円で募集した。9社より申し込みが寄せられ、うち2社は広告掲載のみであった。

各社に提供した書籍展示・販売スペースは、机は幅258cm×奥行78cm、椅子は2つ(希望に応じて増減)であった。会場に便利な位置の教室を確保できたこともあって、本学会関連の書籍多数を見ることができ、大会参加者には有用であったと思われる。また、開催経費をまかなう上で、小さくない貢献であった。

(2) プログラム等の作成・発送

大会プログラム冊子については、企画委員会が作成したプログラムと要旨原稿の部分を含めた版下を事務局で作成し、短期に安く印刷できるようにした。

発送用ラベルは、学会事務センター(ワールドプランニング)から提供いただき、クロネコメール便で送付した。なお、前述したように、印刷と送付は國大生協に委託した。発送後、学会ホームページおよび学会メイリングリストを通じて、プロ

グラムが配達されない場合は実行委員会までご連絡いただくようお願いかけた。住所変更などで返送されてきた物が30件以上あり、個別にメールで連絡もし、返信のあったものには郵便で再送した。

(3) 事前申込

出欠葉書を用いない効率的やり方を踏襲し、5月9日までの事前振込を呼びかけた。学会ホームページを見た非会員からの問い合わせもあり、非会員の事前振込も受け付けた。

事前振込は、267人(うち非会員11人)であった。事前振込の中には、学会名簿では院生会員となっている者が、一般会員の参加費2,500円を納入するケースがあった。こうした場合は、既に就職して一般会員となっているものと思われるので、2,500円納入者は全て一般会員とし、1,500円納入者を院生会員とした。

なお、5月9日の期限までの納入者が例年よりも少ないと思われたので、5月15日を最終期限とするように延期して受け付けた。

(4) パワーポイントへの対応

共通論題会場と分科会5会場すべてでノート型パソコンを準備し、パワーポイントを利用できるようにした。利用希望者には、当日データを持参すると共に、予備として事前に事務局宛に送るように広報したが、事前提出者は半分程度に過ぎなかった。ともあれ、各会場に要員を配置してあったが、特段のトラブルもなかった。

(5) 懇親会・昼食・弁当

懇親会は、若木タワー最上階(18階)を会場とすることができたので、総会会場からの移動は短時間かつスムーズであった。天気があいにくではあったが、夜景もある程度楽しんでいただけたのではないかと思う。

國大生協の協力によって、上質な清酒を含む飲み物や料理を十分に提供できたのではないかと考えている。

なお、懇親会参加者は125人(事前104人、当日21人)であった。会場のスペースの事情で多くの当日参加希望者をお断りせざるをえなかった。昼食は、両日とも学会開催にあわせた特別メニューを準備し、國大生協から特別営業の協力を得た。弁当は幹事・委員および大会要員用のみとし、一般参加者向けの弁当の用意はしなかった。大会会場前建物の地下にあった生協食堂が多くの方々に利用され、コンパクトな開催が、この点でも実感いただけたのではないかと思われる。

(6) 会場設営、大会運営、大会要員等

開催にあたって特に留意したことは、参加者がスムーズに國學院大學渋谷キャンパスに到着し、受付が混雑することなく会場へすぐに行けること、必要な要員を確保して円滑な運営を行うことであった。コンパクトな開催が混雑する狭いスペースとならないように工夫する必要があった。幸い、最も心配していた受付の多い24日が休講となり、学生が离校しないことになったので、両日共にスペース全体をほぼ大会運営に活用できた。

大会要員として、前日準備に11人、24日に22人、25日に18人の院生・学生を確保した。前日準備は、15時から22時までに配布するワーキングペーパー等の封筒詰め、会場設

営を行った。授業のない教室の設営は夕方までに終了したが、21:05まで授業のあった共通論題会場等などはその後に行うしかなかった。マイクやパソコンの準備などは、当日7:30から施設管理者とともにいった。

当日は、渋谷駅およびキャンパス正門付近に案内係を配置し、掲示物による案内と共に、スムーズな案内を心がけた。受付も10:30まではできる限りの要員を配置し、混雑が生じないように努め、ほぼ円滑にできた。

共通論題および総会、分科会それぞれの会場は、必要と考えられる人数の入る規模の教室が確保でき、資料配布とマイク係などの要員も概ね必要な人数を配置できた。

休憩室は出入口横の大教室を充て、飲み物を準備し、要員も常時1名ないし2名を配置した。固定式の机・椅子であったので、休憩室としては使いにくい教室であったのではないかと恐縮していたが、便利な位置にあったこともあって、多くの方々に利用いただいた。また、分科会資料の残部は、休憩室の一画に並べ、自由にお取りいただいた。

なお、5月22日までにお送りいただくようお願いしていた共通論題、分科会、自由論題の報告者のフルペーパーは、期限をできる限り直前としたこともあって、当日持参の3名を除き概ね事前提出された。当日の増し刷り要請も特になく、円滑にいったと言える。

(7) 託児所

國學院大學渋谷キャンパス近隣には託児所がなかったので、渋谷駅周辺の2施設を紹介し、各自直接申し込んでいただくようにした。第114回大会実行委員会の例にならって、託児料が1日当たり1万円を超える場合には実行委員会が負担することとし、プログラムに明記したが、申し出は1件もなかった。

(8) 事後処理業務

25日17:00に大会が終了し、20:00までに各会場の掲示物の撤去、原状復帰、ゴミ処理等を迅速に済ませることができた。しかし、受付簿と現金の整理、アルバイト謝金の計算・支払い明細の作成・支払金額の用意と支払い、生協等への経費の支払いを終えるのに、1ヶ月を要した。

また、大会継承物品(名札入れ、その他文具・記録類)の整理・補充と次期開催校への送付、大会開催校報告の作成などの事後処理に約3ヶ月を要した。各方面にご迷惑をおかけしたことに、お詫び申し上げます。

5. おわりに

コンパクトで省エネ開催を心がけ、かつ大会の成功と参加者へのきちんとした便宜の提供に努めたつもりである。概ねその責を果たせたのではないかと安堵している。

報告者、座長、参加者、幹事会および春季大会企画委員会など関係各位のさまざまなご協力とご理解に感謝申し上げます。また、実行委員会の不手際で、不都合や不快をお感じになった方がいらっしまったかも知れない。その際は何卒ご寛容を賜りたい。

(文責 橋元 秀一)

5. 第116回大会決算報告

〔収入〕

(単位:円)

費目	決算	備考	予算	備考
大会開催費	1,000,000	本部より	1,000,000	本部より
広告掲載料	162,000	9社×18000円	144,000	8社×18000円
懇親会売上	725,500	事前109人、当日21人	660,000	120人×5500円
弁当売上	69,000	24日38人、25日31人	120,000	120食×1000円
寄付	230			
合計	1,956,730		1,924,000	

〔支出〕

費目	決算	備考	予算	備考
大会開催業務一部委託	570,150		653,000	
プログラム印刷	217,500	1500部	255,000	1500部×170円
封筒等印刷	53,400	封筒1500部、払込用紙1200部	56,000	1400部×40円
発送費	96,000	1200部×80円	112,000	1400部×80円
その他代行作業・管理経費	203,250	名札ホルダー150個含む	230,000	
会場看板・生花代金	0		50,000	
文具・消耗品・雑費・郵送費	10,413		50,000	
携帯電話レンタル及び通話料	25,126	レンタル料24,486円、返却送料640円	25,000	
飲み物代金	44,511	大会休憩室用	40,000	
アルバイト謝金および弁当茶菓代	587,530		300,000	
アルバイト謝金	434,350	当日334900円、事前・事後99450円		
弁当茶菓代	60,000	23日10人、24日32人、25日18人		
宿泊代	93,180	大会要員準備等宿泊代		
予備費	0		26,000	
以上開催実務費用小計	1,237,730		1,144,000	
懇親会開催費	650,000		660,000	
弁当代	69,000		120,000	
合計	1,956,730		1,924,000	

6. 学会賞表彰規定改正

第116回大会総会決定(2008年5月24日)

改正(新旧対照)

旧	新
社会政策学会表彰規程に関する細則 2.選考委員会に出席するための交通費は、年2回を限度として支給する。	社会政策学会表彰規程に関する細則 2.審査に要した書籍の購入費について各委員は各年度2万円を上限として請求できる。請求には経費請求書を用いるが、購入点数は審査終了後に会計担当幹事に報告し、その際に購入書籍の領収書を提出するものとする。

7. 第2回幹事会報告

- (1) 名称: 社会政策学会 2008-2010 年第 2 回幹事会
(2) 日時: 2008 年 7 月 12 日(土) 13:30 ~ 18:00
(3) 場所: 東京大学経済学研究科棟 12 階第 1 共同研究室
(4) 出席: 阿部、石井、遠藤、小笠原、小越、佐口、菅沼、
玉井、沈、都留、久本、平岡、布川、藤澤、室住、
矢野、吉村(出席 17 名)
欠席: 岩田、埋橋、鈴木、田中、宮本、森、山本

(5) 議題

1. 新入会員の承認

14 名の新入会員(ニューズレターNo.1 に掲載済)を承認した。あわせて 1 件の在外外国人会員の会費減額について了承した。

2. 第 116 回大会の総括

小越幹事より、第 116 回大会の総括については次回幹事会にて報告するとの発言があった。

なお、参加者は 409 名、懇親会参加者が 130 名であったこと、会計は若干の黒字であったことが報告された。あわせて、分科会において報告順番が変更され苦情が寄せられた事や報告者の資料が不足したため事務局で当日追加コピーを行なった事等について意見を交換した。

3. 各委員会委員の委嘱について

阿部代表幹事より、各種委員会委員の提案と確認が行われた(ニューズレターNo.1 に掲載済)。

なお、学会賞選考委員について、前年度から引き継いで務める委員が 1 名であり、継続性の観点からもう 1 名委員を再任してほしいとの要望が出された。しかし、規程では選考委員は重任できないため、幹事会で議論した結果、前年度から引き継ぐ委員が 1 名以下の場合には、1 名の委員を任期 1 年間として再任するという例外措置をとることで意見が一致した。この点については、詳細を次回幹事会で確認することとした。

また、学会史小委員会については再編の予定があり、9 月に新しい委員を提案することになった。

4. 大学院生会員の取り扱いについて

阿部代表幹事より、大学院生会員の範囲を決める必要が生じていることが説明された。この点について審議した結果、大学院生の学費負担を考慮し、大学院の授業料を支払っている者を大学院生会員とすることにした。ただし、定職があって大学院にも在籍している社会人院生は、従来通り一般会員として取り扱うことも確認された。

5. 編集委員会報告

平岡編集委員長より、学会誌の編集の進捗状況について報告があった。このなかで、創刊号の刊行予定、現在までの投稿論文数、第 2 号と第 3 号の特集等が説明された。

新しい学会誌は、ISSN コードを取得する方向で出版社と調整していることについても報告があった。学会誌の英文タイトルについて編集委員会からの原案(複数)を幹事会で検討した結果、Social Policy and Labor Studies とすることを決定した。

また、投稿規程の旧第 13 条の抜き刷り配布に関する規程は、財政上の観点から、再考したほうがよいとの提案があり、

幹事会で同条の削除を決定した。あわせて、同規程付則の編集委員会事務局を新編集委員長のところに修正したことが報告された(ニューズレターNo.1 に掲載済)。

特集等における依頼原稿の査読のあり方について意見交換を行い、依頼原稿については形式的な不備を修正する程度の査読にとどめることが確認された。

今後、第 2 号は 2009 年 1 月末、第 3 号は同年 5 月末、第 4 号は同年 9 月末に刊行する予定であること、また、これ以降ほぼ同時期に学会誌を発行する計画が提案され、了承された。

編集委員長からは、課題として残された点として、査読プロセスの確立や編集委員の役割分担、企画委員会との連携の強化等があることが説明された。また、編集委員の増員、および第 4 号以降の特集について、今後編集委員会で検討していくとの報告が行われた。

6. 秋季大会企画委員会報告

小笠原秋季大会企画委員長より、今秋の第 117 回秋季大会プログラムについて報告が行われ、了承された。なお、大会プログラムは 8 月 20 日頃に発送する予定にしていること、また、共通論題の報告について学会誌への寄稿を依頼することも報告された。

また、同委員長より、自由論題分科会報告のなかにタイトルからは社会政策学会の報告として相応しいかどうか判断し難いと思われるものもあるが、秋季企画委員会では、応募に際して提出された報告概要を慎重に検討した結果、採択することとした旨の報告があった。

7. 春季大会企画委員会報告

佐口春季大会企画委員長より、来年度の春季大会の共通論題として「労働組合の現在」が提案され、このテーマを設定した理由等について説明が行われた。幹事会では、春季大会企画委員会の提案について意見交換を行い、提案通り了承した。

8. 2008 年度秋季(第 117 回)大会実行委員会報告

第 117 回大会実行委員長の藤澤幹事より、大会準備の進捗状況が報告された。このなかで、岩手県立大学と共催の可能性について検討していることが報告された。ただし、岩手県立大学のキャンパスが岩手大学から離れており、移動が難しいこと等、問題もあることが指摘された。幹事会では、これらの点について意見交換したうえで、最終的には実行委員会に一任することにした。

9. 2009 年度春季(第 118 回)大会実行委員会報告

第 118 回実行委員長の矢野幹事より、大会開催にむけた準備の進捗状況が報告された。なお、日本大学より大会開催経費の補助が支給される見通しについても報告があった。

10. 広報委員会報告

菅沼広報委員長より、次回ニューズレターの発行スケジュールが報告された。

なお、ホームページの更新が滞っている点について、技術的な問題があることが説明された。ホームページについては、早く安定的に更新できる体制をとるよう努めていることも

あわせて報告された。

11. 会員業績リストに関する会員からの投稿について

阿部代表幹事より、今年度の総会で決定した会員業績リストの廃止について、会員からのニュースレターへの投稿があったことが紹介された。

投稿者はニュースレターへの掲載を強く希望されているが、ニュースレターNo.1 は、総会の決定事項等、掲載すべき記事が多く、すでに紙面が一杯であるため、掲載するとしてもNo.2以降になるとの説明があった。

この投稿原稿の取り扱いについて幹事会で意見交換した。このなかで業績リストの廃止の経緯について、まずは投稿者にきちんと説明する必要があるとの意見があり、当面、投稿者と阿部代表幹事が懇談することとし、それをふまえて投稿原稿の取り扱いを決めることにした。

12. 国際交流委員会報告

国際交流委員会副委員長の沈幹事より、今後の企画について、秋以降に共催企画を2件予定していること、台湾で11月に行われるEASP学会の報告者を選定することが報告された。

また、7月17～18日に中国・復旦大学で行われる「東アジア社会政策会議」に4名参加することが報告された。

13. 国際交流旅費の支出について

阿部代表幹事より、ジェンダー部会から事務局に来年度の春季大会で海外から報告者を招聘するため、国際交流旅費の申請があったことの報告があり、この取り扱いについて意見を交換した。

このなかで、国際交流旅費は予算が限られており、招聘旅費全額の支給は難しいこと、今回の招聘者については大学等の協力による招聘も考えられることなどの意見が出された。

国際交流旅費の支給についてのルールがないため、申請方法や決定過程などについてルールを検討することにした。今回の申請については、国際交流旅費の支給ルールをつくったうえで、取り扱いを決めること、他の資金等への申請なども検討して欲しいことを伝えることにした。

14. 社会政策関連学会協議会報告

遠藤幹事より、次回は7月21日に会議が開催されることになっていることが報告された。

15. その他

佐口幹事より、春季と秋季の大会企画について連携をはかるため、次回幹事会前に企画検討委員会を開催してほしいとの要望が出された、代表幹事が日程を調整することになった。

8. 承認された新入会員

氏名	所属名称	専門分野
9月21日承認分 9名		
軍 司 聖 詞	早稲田大学大学院経済学研究科院生	社会保障・社会福祉
本 田 光	宮古島市役所福祉保健部	社会保障・社会福祉
小 島 和 枝	University of Edinburgh 院生	社会福祉・ジェンダー
山 下 順 子	ブリストル大学東アジア研究所	社会保障・社会福祉
遠 藤 康 裕	首都大学東京人文科学研究科院生	社会保障・社会福祉
今 井 拓	高崎健康福祉大学健康福祉学部	社会保障・社会福祉
奥 田 浩 二	市川市福祉事務所	社会保障・社会福祉
アラ坦宝力格	東洋大学大学院福祉社会デザイン研究科院生	社会保障・社会福祉
島 村 博	協同総合研究所	労働経済・社会福祉

訂 正

前号ニュースレターNo.1(通巻56号)に誤記がありましたので、お詫びして訂正いたします。

2頁 3. 社会政策学会 2008年度総会 右段13行 名誉会員の推挙の項
(誤) 石橋 良太郎 (正) 石畑 良太郎